



入谷小校長室だより

# 顔晴れ！入谷っ子！

2018年11月1日

No. 8

TEL 46-2655

FAX 46-2654

学校教育目標：命とふるさとを大切にすることの育成

目指す児童像：《一はきはき 一てきばき 一にこにこ》

☆いつもまなぼうとする子 ☆りりしくたくましい子 ☆やさしくたすけあう子  
心も体も元気な子どもを育成するために 家族みんなではやね・はやみき・あさごはんを実践しよう!!

文責：校長 高橋 有

## 一言の楽しさから言葉の大切さを学ばせたい

### 言葉のおもしろさを・・・ ～豆腐が納豆で、納豆が豆腐～

『語源散策』(岩淵悦太郎)という本を読んで、言葉じりをとってと思われそうですが、言葉の使われ方にも「？」と思えることがたくさんあるんだなあと改めて言葉のおもしろさを感じました。



その中で、ある国語の先生が話した楽しい言葉の話を紹介します。それが表題の「豆腐と納豆」です。

先生は、生徒に「本来、豆腐とは、豆を腐らせた(発酵させた)ものだから納豆のことだろう？納豆とは、豆を加工して形に入れたもの(収めたもの)だから豆腐ですよ。考えれば考えるほど分からなくなってきてしまう。君たちどう思う？」と聞かれたそうです。

生徒たちは、何でも知っている先生が、自分たちに尋ねたことにびっくりしたそうですが、この意外な話の中に「言葉の不思議(言葉のおもしろさ)」に興味をもったとのこと・・・。

### 「？」と思う言葉の紹介・・・!

「お湯を沸かす」「天ぷらを揚げる」「玉を磨く」など、よく考えると同じことを説明したり、何かおかしい感じがしたりする言葉があります。

「お湯を沸かす」という話は、実は、江戸時代の滑稽本『東海道中膝栗毛』の中に書かれているそうです。風呂に入るためにお湯を沸かすという発言に対し、「湯を沸かしたら熱くて入れない。水を沸かしてお湯にしてくれ!」と答えたという内容です。言葉のやり取りのおもしろさが伝わってきますね。

子供たちの言葉が乱れているということをよく聞きますが、とても大切な日本語です。「言葉のおもしろさ」を子供たちに伝えたり、言葉の由来・意味・歴史を調べたりすることから一緒に楽しんでいくこともおもしろいのではないのでしょうか。

最後に言葉の読みから一つ。「魚」を何と読むでしょう？  
江戸時代の「浪花方言」という本では、「魚屋」を大阪では「うおや」、江戸では「さかなや」と読んでいたと記録にあります。私も「さかなや」としか読んだことがありません。  
(昭和48年まで、音訓表では「ウオ」だけでした。)



ご家庭でも、子供たちとこんな言葉の勉強はいかがでしょう。言葉の楽しさから、言葉の大切さを学ばせたいものです。

## 《10月の職員会議で教職員に提示したことばです！》



のことば・・・



### 『ミクロの視点とマクロの視点』（狭い視野と広い視野）

人間は目の前にある課題に気をとられて、それだけで解決しようとする傾向があります。それは、物事をミクロに見ているからです。しかし、物事は単純な原因で起きているのではなく、いろいろな原因が複合されて起きています。本当の解決をするためには、マクロな視点から見ようとするのが大切だと思います。

剣道に「遠山の目付」という言葉があるそうです。剣道では、相手の小手や面、足の動きなどにとらわれていると全体が見えないので負けてしまうことがあり、もっと相手の全体を見るマクロな視点の必要性を説く意味だそうです。

子供たちが日常生活で課題に直面したときに、このマクロな視点をもたせたいものです。問題を解決するときには、冷静になって物事の全体を見る姿勢と、マクロな視点とミクロな視点をバランスよくもつことで問題が解決することを子供たちに伝えていきたいですね。このことが、人間関係で悩んだときに、視点変換が必要なことにも結び付くことにもなると思います。

我々教師もこのような視点で子供を見つめ、指導していくことが大切であると考えます。私も含め、もう一度、子供を見つめる視点を再確認していきましょう。

ご家庭でも、家庭生活において、お子さんとのかかわりの中で意識してみてはいかがでしょうか。

【参考までに】 ⇒「剣道」について調べてみました！（剣道研究サイトより）

#### 《目付について・・・》

剣道の稽古では、目の働きいわゆる「目付」が非常に大切な要素とされている。剣道の稽古は、表面的には技の応酬ですが、一方で心の鍛錬でもある。つまり、剣道というのは技と技の争いでもあり、心と心の争いでもあり、その心の有り様を最もよく表すものが目である。相手のどこをどのように見るかという「目付」が非常に重要であり、「目付」の如何によっては、相手の心を読むこともでき、逆に自分の心を読まれてしまうことにもなる。だから、大切な要素だと言える。

#### 《<sup>えんざん</sup>遠山の目付とは・・・》

目は心の窓とか、目がものを言うとか言われるように、人の心の動きは目に現れやすいもの。剣道では、相手の目の動きを通してその意思を察知することが必要になってくる。そこで、相手のどこか一カ所を注視するのではなく、はるか彼方の遠い山を見るように、相手の構え全体を見て調和がとれているか、どこに隙があるかなどを見破る目を養わなければならない。これを「遠山の目付」と言い、剣道の稽古や試合においてきわめて大切なこととされている。

\*\*\* 《備 考》 \*\*\*

紅葉を見るときも、木のそばから見るのではなく、遠くから眺めてはじめて紅葉の美しさが良く見えます。このため、全体を見る目付を「紅葉の目付」と言う場合もあるそうです。

